

ふる里の歳時記 (121)

写真と文：厚川 小一（エッセイスト）



年新らた

花ヤツデ天意で咲けり仁王門

厚川小一

寒椿かんつばきに近い品種だが正月に入ってもまだ何輪か咲いている。「秋の山」である。この椿は実から生えたもので三十年を越して樹勢が一番よく、わが庭の中心的存在である。寒くなる前は子どもがよく登るが枝振りが密で落ちる心配はないので、自由にさせている。今では、だいぶ少なくなつたが成木が十本近くあるので、これから春にかけてメジ

口の小さな群れが毎日のようにやってくる。春先のヤブ椿が終わるまで、どこかで咲いているので、昼下がりにには必ずメジロが数羽の小さな群れが見られる。俳句歳時記ではメジロは夏の部に分類されているが、これは低山帯を指し、繁殖期である。里に下りてくるのは晩秋からで、正岡子規の句に——南天の実をこぼしたる目白かな——がある。わが家のような里離れた所では冬に入ると、必ず聴かれたウグイスの笛鳴きふえなまきがもう何年も聞こえない。わが町では中野北部から東にかけて地域で毎年飛来があるようである。お知らせいただいている。

近ごろ気づいて見ると、野鳥は少なくなつた。里山育ちの私などいつでも小鳥たちを頭にしていた。特に多かったのはホオジロで、雄のさえずりが桑畑まで下がってよく聞こえた。文明本筆用集には——源平つじ白つじ——一筆啓上いちひつしやうじ仕り候しりこう——と出てい

るが、私たちは——てっぺんいちろくにしゆまけた——と、そろばん用語をもじつて口真似まねしていた。あのころの冬は楽しかった。たっぺたつぺ（霜柱）をざくざく踏んで、山道を抜け、田んぼ道を足早に私たちは小学校を目指したが、その通学道路が二本田んぼの分だけそのまま残っている。歩きにくい乾いている時はよく歩いてみる。このあたりの寒いころは、いつでもカワラヒワが集団で飛んでいた。カワラヒワは金翅こんじすずめ雀の別名があるように黄色混じりの羽根を持つているのでよく思い出すが、もうこういう群れには出会うことがなくなった。それに代わってセグロセキレイが足元に見えるようになった。白い小さな鳥だが背の分だけ黒く、雀より人近く、かわいい小鳥である。近年この地に移ってきたのである。朝夕歩いていると目につくものは動くもので、特に街路樹に糸を引きながら日々大きくなってゆくのは、クモの一群で数少なくなつたアブラゼミまで引つ掛かっているのも出会うことがある。生きているのは外して助けてやったこともあつた。また、防鳥網のスズメも助けた。

今冬も白鳥が多々良沼に飛来し始めたと聞いてはいるが、まだ見に行っていない。旧冬、中野の県緑化センターおよび多々良沼周辺で野鳥観察会があり、オオタカなど二十五種類が観察された。いつもあの辺りを通ると、森に入ったり沼辺を見るのだが、私の予想では十余種と想っていた。さすがは野鳥の会のかたがたの熱心な観察である。おうら創造の森は県内唯一の平たん地帯につくられた公園で、樹種もそれなりに多く、今では地元であまり見られないなつかしいものが植えられている。秋の紅葉、春の新緑、年輪を重ねることに自然に近づきつつある。

ひとりごと From editors

▼新年明けましておめでとうございます。1月号は、配布日が12月28日と、いつもの月より早いため、編集期間が約1週間近くも早まります。ですから毎月あつという間に過ぎてしまう1か月が、12月は特に早く感じられました。おかげで、1月号の入稿日に風邪を引いてしまいました。▼昨年の夏はとにかく暑かったですね。秋を感じる間もなく冬に入ってしまった。1月は、消防出初式や上毛かるた大会、成人式典、白鳥まつりと冬のイベントが目白押し。四季の中で、冬が一番苦手なので、取材の日は、暖かければと願っています。2011年がおうら町民の皆様にとって、素晴らしい年になりますようにお祈りいたします。（藤）



夕陽に浮かぶ多々良沼



Photo 高根澤高明 (記録ボランティア)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成23年1月号 No.532

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎0276-88-5511 (代表)

☎0276-47-5007 (企画課直通)

☎0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>E-mail kohog@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>